

普及情報

コウノトリと共生する酒米「フクノハナ」による産地の活性化

豊岡市出石町は「フクノハナ」の全国唯一の産地で、現在、コウノトリと共生する環境創造型農業の推進と「フクノハナ」の振興を組み合わせた「フクノハナ振興プロジェクト（以下、プロジェクト）」に取り組んでいる。

運営体制の確立と関係者の連携強化

生産者、市、農協、普及センター等の産地関係者と酒造会社が参画したプロジェクトで効率的に成果を上げるため、課題（図1）ごとに実施期間と関係者の役割分担を明確にした。生産農家と酒造会社によるプロジェクト会議の定期開催によって進捗状況、問題、課題を共通認識でき、両者がより深く結びつく関係のなかで生産振興が進むようになった（図2）。

環境創造型栽培技術の確立と普及

「フクノハナ」は石川県の(株)福光屋との連携で、2003年度から全ほ場で特別栽培に転換したが、粒張りや収量等に課題があり、2005年度から牛糞堆肥による土づくりに取り組んでいる。同時にひょうご安心ブランド認定を取得した。

豊岡農業改良普及センターでは畜産農家の組織化及び堆肥散布機械の導入支援とともに、畜産農家と生産農家で組織する堆肥利用組合の組織化を支援

し、生産農家が散布オペレーターとして参画する近隣地域には見られない耕畜連携システムが定着している。一方、実証ほや定点を設置し、堆肥連用ほ場における適正施肥を生産農家に呼びかけることで、土づくりによる品質改善が着実に進んでいる（表1）。

さらに、2007年度にJA大型育苗プラントで使用可能な有機培土が完成し、完全有機質肥料化を実現した。これを契機に同町の袴狭営農組合では、以前より酒造会社から要望が強かった「コウノトリ育む農法・無農薬タイプ」を1haで導入し、有機JAS認証を取得した。

オンリーワンをキーワードに進む商品開発

2006年度、「フクノハナ」全量使用純米酒「コウノトリの贈り物」が誕生し、全国販売が開始された。生産農家が参画するPR活動の展開によって今までなかった地元販路も確保できた。現在、「フクノハナ」の知名度が向上し、地元食品会社と新たに連携したフクノハナクラスターが設立され、菓子類の開発等、「フクノハナ」の多目的利用が進んでいる。

杉本 政子（豊岡農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：0796-23-1001（代））

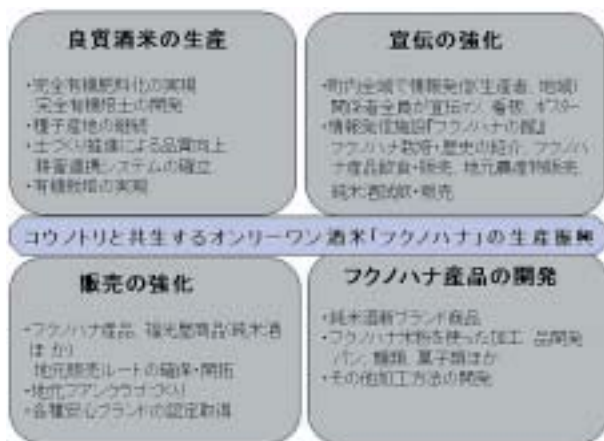


図1 フクノハナ振興プロジェクトの主要課題(2005～2007年)



図2 酒造会社営業担当者に説明する生産農家

表 栽培面積と堆肥散布実積 (ha)

年度	2003	2004	2005	2006
フクノハナ栽培全体	89.1	92.9	88.0	82.1
内、堆肥散布	0	1.5	28.2	28.2